



Communication on Engagement

■本コミュニケーション・オン・エンゲージメントが対象とする期間

開始日：2019年8月1日 終了日：2021年7月31日

(ただし、2019年度および2020年度の活動について記載しています。)

■パートI. 最高責任者による国連グローバル・コンパクトへの継続的支持の表明

ステークホルダーの皆様へ

私は、本校が人権、労働、環境、腐敗防止に関する国連グローバル・コンパクト 10 原則を支持することをここに確認し、ここに表明いたします。これは、国連グローバル・コンパクトに対する本校のコミュニケーション・オン・エンゲージメントです。皆様のフィードバックをお待ちしています。このコミュニケーション・オン・エンゲージメントでは、当団体をはじめとする各種組織に対して提案された国連グローバル・コンパクトおよびその原則を支持するために本校が行った取り組みについて説明しています。また、本校の主要なコミュニケーション媒体を通じて、本校の取り組みを積極的にステークホルダーの皆様に公表していきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年8月18日

校長

湯峯郁子

■パート II. 取り組み状況

(1) GC の原則（人権・労働・環境・腐敗防止）の組織運営への導入

1. 人権

大阪府立学校統一の取り組みのほかに、独自に方針の確認と研修を行うことにより、人権に関して敏感な学校運営および教育がなされるように努めています。年度当初等に指導の基本方針を確認するほか、重点テーマを設定して研修会を行なっています。

時期	形式	内容・テーマ	講師等
毎年度 4 月	会議での確認	人権侵害事象発生時の対応の流れ	人権教育推進委員会
毎年度 5 月	会議での確認	体育祭・文化祭に向けて、表現における人権問題についての指導方針	生徒指導部および人権教育推進委員会
2019 年度 3 月	研修会	『発達障がい』をどうとらえるべきか	大阪府教育センター指導主事
2020 年度 12 月	研修会	同和問題の現在	本校教頭

2. 環境

物品等の調達を大阪府のグリーン調達方針に沿って行うほか、古紙のリサイクルと照明の LED 化を行なっています。

学校においては教材・会議資料・梱包用段ボールを中心とした古紙が多く発生します。これらの集積所を設け、近隣の障がい者作業所に月 1 回程度回収をお願いし、リサイクルに回しています。

また、50 年以上前に建設された校舎はすべて照明が蛍光灯でした。可能な部分から照明を蛍光灯から LED に更新しています。これまでに体育館の照明および本館 1 階の 20w 蛍光灯の照明を LED 化しました。これからも順次変更予定です。電力の節約とともに取り替え作業の省力化にも役立っています。

3. 労働と腐敗防止

労働と腐敗防止については、大阪府の方針・基準にしたがって運営しています。

(2) 活動を通じた GC とその原則の推進

1. GC に関連するテーマについての教育の提供

① 国際文化科の生徒を対象とするプログラム

《SDGs の導入》

本校は国際文化科の生徒に対し、2015 年度の文部科学省スーパー・グローバル・ハイスクール指定への応募を機に、GC が取り上げる人権・労働・環境の問題について、国際文化科の教育課程に位置付け、あるいは希望者対象の研修として指導を続けてきました。そして今回の報告の対象である 2019 年度からは持続可能な開発のための目標（SDGs）を学習に導入することにしました。

このための準備として 2018 年度の 8 月に担当教員が SDGs に関する研修会に参加して理解を深めるとともに、2019 年と 2020 年度の 2 月には教員を対象に勉強会を開いて理解の全体化を図りました。また、この勉強会には学習成果発表会「千里フェスタ」の公開日の午後



2020 年度 教員対象公開勉強会

に開き、他校の教員にも参加していただくことで校外への普及も図りました。

◇教員対象公開勉強会

年度	テーマ	講師
2019	SDGs×教科の魅力～各教科へのつなげ方と実践紹介～	未来教育デザイン Confeito 山藤旅聞氏
2020	SDGs を活用したホールスクールアプローチの実践－探究を軸にした主体的 学習者の育成に向けて－	立命館守山中学校・高等学校 田辺記子氏

《1年生》

1年生は『家庭基礎』・『総合的な探究の時間』（『国際理解』と『探究基礎』として実施）の授業でSDGs とグローバルな課題について、講義・ビデオ・ロールプレイ・調査・発表・ディベート等を通して学びます。そして年度末には2年生で行いたい課題研究のテーマを決めて提出します。また、希望するテーマがSDGs のどの目標に関連が強いのかも自己申告してもらい、講座を編制する際の基準にしています。ただし、SDGs では直接言及されていない LGBTQ や不登校の問題を取り上げる生徒もいます。

《2年生》

2年生は、自ら決めたテーマについて週2時間の授業『探究』（『総合的な探究の時間』と『社会と情報』の時間を合わせて運用）で1年をかけて課題研究を行います。これがGCに関連するテーマについての教育として本校で最も力を入れている活動です。この授業の年間の流れは次のようになっています。

4月～6月	問題をデータに基づいて把握し、先行研究を確認した後、自分の研究で明らかにしたい問い（リサーチクエスチョン：RQ）を立てます。
7月～9月	RQの答えを得るために仮説を立て、検証のための調査を行います。夏休みを利用してできるだけ外部への取材を行うことを奨励しています。夏休み明けには調査の結果をまとめて講座内で報告を行います。
10月～12月	10月には各講座の代表による中間発表会を行います。この発表会では、進んでいる研究の報告を見て、また、大学の先生や企業のCSR担当者からのコメントを聞いて各自の研究の参考にします。このあと、11月の初めにかけて大学院生から個別の指導を受けます。この指導では主にRQ-仮説-調査-考察の間の論理性について問題がないか指導してもらいます。そして、ここまでの研究を振り返って必要になった追加の調査を年末までの期間を使って行います。
1月～2月	1月の初めに再度大学院生からの指導を受けます。主に、タイトルから結論までの一貫性など論文としてのまとめ方について指導を受けます。この後、2月に全員が学習成果発表会「千里フェスタ」において口頭発表をおこないます。この発表は、全校生徒だけでなく、見学を希望された保護者および一般社会人をも対象にしています。そしてこの発表で得られたフィードバックを反映させて、研究論文を完成させます。

《3年生》

3年生は、英語の選択科目『トピック・スタディズ』において、人権・労働・環境を含むグローバルな課題を取り上げて学習します。この授業では、最新の状況を知るとともに授業の手法に模擬国連活動を

導入することにより「各課題への国によるスタンスの違いを調べ、意見を出し合い、合意できる点を探る」活動を通して深い理解が得られるようにしています。

《外部組織との連携》

外部の教育資源の導入にも取り組んでいます。1年生を対象にしたものでは、環境 NGO からゲスト講師を招いて『国際理解』でコラボ授業を行うほか、国際問題について研究している大学院生による講演会を開きました。（2021年度前半は、コロナ禍の状況のためこの講演会の代わりに、国際協力ボランティアを体験した大学生にオンラインで体験を紹介してもらいました。）また、2年生の課題研究科目『探究』では、大学院生に生徒の研究に対して個別指導をしてもらうほか、年2回の代表発表会に社会活動が専門の大学教授と GCNJ 加盟企業の CSR 担当者をお招きして研究の社会的意義や現場での状況を生徒に伝えていただきました。

◇国際文化科対象の教育（特記のない場合 2019年度～2020年度共通）-----

- ・授業『国際理解』（1年生・総合的な学習の時間の1単位・通年）
→人種・文化・宗教の多様性とともグローバル課題について学ぶ。
- ・授業『家庭基礎』（1年生・2単位・通年）
→市民教育の一環として、日常生活とSDGsの関係を調査とプレゼンテーションを通して学ぶ。
- ・授業『探究基礎』（1年生・総合的な学習の時間の1単位・後期）：
→GC課題を題材に情報収集、論理的な意見構築、多面的検討、現実的な解決策の案出を学ぶ。
- ・講演会（1年生・全員対象）
→国際公共政策を研究している大阪大学の大学院生を招き、グローバル課題に取組む学問的方法と生き方を学ぶ。（2019年度）
※2020年度はコロナ禍の影響で取りやめ
- ・Glocalフィールドワーク研修（1年生・希望者対象）
→地元の国際交流協会・モスク・コリア系国際学校を訪問し、異なる宗教・異なるルーツを持つ人との対話を体験するとともに、国際人権について学び、グローバルリーダーが持つべき資質のひとつである Diversity & Inclusion への理解を深める。（2019年度）
※2020年度はコロナ禍の影響で取りやめ
- ・企業訪問研修（1、2年生・希望者対象）
→GCNJ加盟企業を中心に企業を訪れ、CSRの取り組みを学ぶ。（2019年度）
※2020年度はコロナ禍の影響で取りやめ
- ・授業『探究』（2年生・総合的な学習の時間の2単位・通年）
→自分が関心のある社会課題を一つ取り上げ、1年をかけて現状・原因の把握、解決策の提案を目的に「探究」する。2月の校内研究発表会で全員が口頭発表し、最後は論文にまとめて提出する。途中、大学院生から論文作成について個別指導を受ける。また、代表に選ばれた研究は、10月・2月の発表会で大学の研究者および企業のCSR担当者から講評を受ける。



家庭基礎
エシカルコンシューマーポスター



国際公共政策研究者による
研究紹介



Glocalフィールドワーク研修
コリア国際学園



企業訪問研修
第一生命チャレンジド 大阪

・海外研修（2年生・希望者対象）

→Diversity & Inclusion をテーマにニューヨークを訪問する。多様な背景を持つ人々が良い形で共生するためのトレーニングを体験するとともに、学校・メディア等における取組みを学んだ。また、多様性が生じた歴史的背景として移民が置かれた境遇を学ぶため、中国及びヨーロッパからの移民に関する博物館を訪問した。（2019年度）

※SGH 指定終了に伴い、2020年度以降休止。



海外研修
多様性と包摂について学ぶ

・授業『トピック・スタディズ』（3年生・英語選択科目・2単位・通年）

→グローバル課題について、国連等作成のビデオや記事・Web上のニュース記事を素材に最新の状況を英語で学ぶ。また、課題から2つを選んで「模擬国連」を行い、国による立場の違いおよび国際連携の難しさと可能性を体験を通して学ぶ。2020、2021年度は、コロナ禍のグローバル課題への影響を合わせて学ぶことになった。

② 両学科の生徒を対象とするプログラム

《教育の目的へのSDGsの導入》

2019年度からは学校教育計画の「めざす学校像」の中で「国際社会や地域社会において持続可能な開発のための目標（SDGs）2030アジェンダを実践できる人材の育成」を挙げ、本校のもうひとつの学科である総合科学科においてもSDGsの解決を教育の目的に据えました。

《コア生徒集団から》

具体的にはスーパー・サイエンス・ハイスクール事業のコア生徒集団(Future Scientist Group: FSG)を対象に、朝日新聞社と連携してSDGsの基本的な考えとその解決の具体例を学ぶ「SDGs教室」から始まり、課題発見の方法を学ぶ研修や、プラスチックによる海洋汚染についての講演・フィールドワークをセットにした研修などへとつながる学習プログラムを提供し始めました。特に科学に関心の高いFSGの生徒に研修や発表の機会を集中して提供することで、彼らから他の生徒へSDGsへの関心と課題意識が広がることを期待しています。

《国際シンポジウム》

また、SDGsに対して両学科の生徒が「文理融合」を意識して取り組む経験を提供していく第1歩として2019年度は10月に、2020年度は2月に「国際シンポジウム」を開催しました。この会では共通のグローバルなテーマを設定して、本校が受け入れている海外からの留学生および海外交流校である台湾国立中科実験高級中学とともに両学科の生徒が研究を交流します。2019年度は各国での環境への取り組みを紹介し合いました。また、2020年度は多様性をテーマに留学生と本校生から各国の状況を報告し合いました。台湾国立中科実験高級中学からは科学研究の報告を受けました。



留学生による
自国の環境への取り組みの報告

③ 人権教育

大阪府の方針に従い、人権に関して生徒が認識を広げ理解を深めるための教育を行っています。2019、2020年度は次の内容で実施しました。

2019年度はSDGsを念頭に3年生対象の研修のテーマを「国際社会と人権」とし、アジア太平洋人権情報センターから所長の三輪敦子さんを講師にお招きして講演を行っていただきました。2020年度はコロナ禍のための休校や密集回避措置のため例年行なっている講演会および映画を使つての研修等を見送ることになりました。

年度	対象	テーマ	講師・教材等
2019	1年生	①ネットモラル	本校教員
		②学校生活と人権	アンケートとその結果
		③性の多様性	HIVと人権情報センター村上貴大氏、内藤れん氏
	2年生	①障がいを持って生きる	NPO法人バラキャン 諸隈有一氏・映画『ウイングパス』
		②社会的マイノリティ	当事者および支援者11テーマ・14人
	3年生	国際社会と人権	ヒューライツ大阪 三輪敦子氏
全学年	情報モラル	クラス担任	
	北朝鮮による拉致事件	校長・アニメ映画『めぐみ』	
2020	1年生	①ネットモラル	本校教員
		②性の多様性	HIVと人権情報センター村上貴大氏、内藤れん氏
	2年生	(実施できず)	
	3年生	(実施できず)	
	全学年	情報モラル	クラス担任

2. GCに関連する応用研究と思想的リーダーシップの推進およびGC原則の普及

本校は、前項で示した教育を行うことに加えて、授業『探究』において2年生が行った課題研究の研究成果を広く社会に公開することでGCに関する思想的リーダーシップの推進とGC原則の普及に貢献しようとしています。

具体的には、①2月の学習成果発表会「千里フェスタ」における全課題研究の口頭発表を一般公開、②優れた研究を集めた論文集または要旨集を作成しWeb上で公開、③全国スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会等に優れた研究を行った生徒を派遣し研究を発表、④各取組の内容と「生徒が学んだこと」を専用ブログで発信、しています。

※ Web上の情報は
<https://osaka-senri-hs.net/sgh/>
 に掲載しています。



■パート III. 成果の測定

成果については、「パート II. 取り組み状況」において主な実績も記載しました。そこで、この項では我々の取り組みの成果を端的に表すものとして、本校が最も力を入れている「GC に関連するテーマについての教育の提供」のうち国際文化科2年生全員が取り組んだ課題研究についてご報告いたします。

以下にお示しするのは、2020年度末に生徒たちが口頭発表し、その後、論文にまとめた全ての研究のタイトルです。4クラスの生徒が12の講座に分かれ、1～3人で100件を超える研究を行いました。これらを見ていただくことで生徒たちがどのような情報を1年生の時に受けとめ、何に興味をもって2年生の1年間をかけて研究をしたのかをお分かりいただけるものと考えております。

◇ 2020年度『探究』全研究タイトル -----

講座 A【SDGs 1,3 健康と福祉】

1. 「日本のフードバンクシステムを活性化するには」
2. 「食と学力向上」
3. 「自分らしい就活に必要なこと」
4. 「今の日本における子供の貧困による教育格差を無くすには」
5. 「スマホ依存脱却！」
6. 「妊婦を含む女性が働きやすい社会とは」
7. 「大麻を解禁すると何が起きるか」
8. 「学校に行きづらいつとのおもうのはなぜ？～発達障害と私たちの関係～」
9. 「同一労働同一賃金が企業に与える影響」
10. 「アフリカの子供たちを太らせるには」

講座 B【SDGs 3,8 労働と経営】

11. 「テレワークの普及で日本の働き方はどのように変化していくのか」
12. 「労働時間を減らし、賃金をキープ又は向上させることは可能なのか。」
13. 「クラブチームの財政難をなくすには」
14. 「産後女性が戻り育児もできる職場環境とは」
15. 「スターバックスから学ぶ経営戦略」
16. 「日本国内でディーセントワークを普及させるために」
17. 「労働時間を減らし、生産性をあげることは可能なのか」
18. 「日本国内で過重労働を減らすためには」
19. 「職場いじめの心理的要因とは」
20. 「ひとり親家庭とその子どもの暮らしを豊かにするには」
21. 「アパレル在庫の行方」

講座 C【SDGs 13,14,15 環境と共生】

22. 「プラスチックを海に流さないためには」
23. 「私たちの緑化」
24. 「森林破壊による動物減少」
25. 「地球温暖化と森林火災～オーストラリアやアマゾンの動物を守る～」
26. 「海洋プラスチックゴミ削減に向けて」
27. 「犬の殺処分を減らすには」
28. 「環境教育によるプラスチック問題の解決」

講座 D【SDGs 5,10 社会意識】

29. 「豊中市における災害時の多言語情報発信の広報について」
30. 「女性の社会進出・男性の家庭進出」
31. 「理想のだれでも使えるトイレとは」
32. 「LGBTQ+の人々が幸せに暮らせる社会の実現」
33. 「男女ともに働きやすい職場を作るには」
34. 「国会議員の男女比率を等しくするためには」
35. 「世界の難民差別について」
36. 「日本の教育現場でのいじめをなくすためには」
37. 「日本国内で部落差別を受けている人々が暮らしやすくなるには」
38. 「新・育児休業制度」

講座 E【SDGs 1,4 教育】

39. 「日本の初等教育における英語の授業の改善方法」
40. 「みんながより過ごしやすく楽しい千里高校にするためには」
41. 「日本の中高生が勉強に対して興味を持ち学習意欲を高めるにはどうしたら良いか」
42. 「児童婚をなくすためには」
43. 「大阪府における相対的貧困による教育格差を解消するためにはどうすれば いいのか」
44. 「東南アジアの発展途上国における国際支援の問題～子どもたちに平等な教育の機会を提供するには～」
45. 「児童労働のなくすために～ガーナの子供たちが自由になるには～」
46. 「難民の子供たちに教育の場を提供するには～シリアの国内避難民およびシリア難民の子供たち～」
47. 「不登校生徒への理解を深めるには」



10月には代表者による中間発表会を行います。



オンラインで企業の担当者取材させていただきました。



年度の後半に2回、全員が大学院生から個別指導を受けます。

講座 F【SDGs 10,11,12 社会システム】

48. 「障がい者が生きやすい社会を作るために障がい者アートがどのように役立つか」
49. 「スポーツツーリズムによる過疎地域活性化への可能性」
50. 「ブルキナファソの教育水準は教員養成と教材不足解消で向上するのか」
51. 「新型コロナウイルスによる日本の貧困層の子供への影響と解決策」
52. 「バングラデシュ農村部の衛生環境の改善は都市部との経済格差解消につながるのか」
53. 「ガーナの教育格差を映像授業でなくせるのか」
54. 「食品ロスを減らすためにドギーバッグを広めるには」
55. 「ヒートアイランド現象を風の道計画を利用して改善するには」
56. 「冤罪から見る日本の刑事手続きの問題点」

講座 G【SDGs 3 健康と福祉】

57. 「カンボジアの医療体制を整えるには」
58. 「中年のひきこもり」
59. 「たばこの追放」
60. 「発展途上国での出産を改善するには」
61. 「日本の介護の人手不足を解決するためには」
62. 「撲滅の刃～スクールハラスメント～」
63. 「望まれない子を減らすには」

講座 H【SDGs 8,12 労働と消費】

64. 「ファッション業界から考える他業界に通ずるマーケティング術」
65. 「女性も男性も働きやすい職場環境とは」
66. 「スタバで紙ストローを普及させるためには」
67. 「働くって楽しい？」
68. 「労働人口不足を女性を職場で輝かせることで解決するためには」
69. 「日本の雇用形態が及ぼす影響」
70. 「VS コロナ！飲食店需要を取り戻せ！！」
71. 「北欧型社会制度を日本にどう生かせるか」
72. 「『働き方改革』の本質」
73. 「障害の有無に関わらず共に働くには」
74. 「フードバンクと食料消費における問題に対する人々の意識」
75. 「『転売』と共生する」



2月に2年生全員が研究成果を口頭発表します。



コメントーターの先生がたから声を掛けていただいています。

講座 I【SDGs 13,14,15 環境と共生】

76. 「自然環境と人間の暮らしの共生」
77. 「プラスチックから自然を守るには」
78. 「あつまれどうぶつの森と世界の森林破壊の考察」
79. 「海洋汚染を改善するには」
80. 「プラスチック問題に対する企業の取り組み ～より良い商品を選ぶには～」
81. 「森林の利用と私たちの行動選択」
82. 「捨て犬・捨て猫をなくすために」
83. 「プラスチックごみの海洋流出を防ぐためには」

講座 J【SDGs 5 人権と平等】

84. 「マイノリティの理解促進のためのコミュニティの提案～解離性同一性障害と LGBT を同時に持った人の、社会で起こる問題から考える～」
85. 「DV を受けた女性への保護措置」
86. 「全ての人が幸せに生きられる社会をつくるために学校ができること」
87. 「育休においての女性の職場復帰と義務化」
88. 「障がいが個性として受け入れられるには」
89. 「ジェンダー問題を解決するには」
90. 「女性の社会進出問題を解決し、少子化も改善するためには」
91. 「男女賃金格差をなくすには～男女平等な社会を作るために～」
92. 「日本での黒人差別」
93. 「強迫性障害を患う人が快適な社会生活を送るにはどうすればよいか？」

講座 K【SDGs 4 教育】

94. 「千里高校の生徒の授業満足度を上げるには」
95. 「日本の理想的な小学校英語教育とは」
96. 「学習漫画で教育格差を解決・まじ!？」
97. 「アフガニスタンにおいて社会に出た時に使える実用的な初等教育を実現するには」
98. 「不登校児童生徒が将来明るく生きるために何ができるか？ ～中一ギャップをなくすには～」
99. 「日本の小学校で行われるべき音楽教育とは」

講座 L【SDGs 1,11 社会意識と社会システム】

100. 「子ども食堂で孤食を減らそう」
101. 「差別のない社会を実現するための日米のいいとこ取りによる子どもへのアプ ローチ」
102. 「メディアの在り方と私たちの向き合い方」
103. 「未婚率上昇による少子化への影響とその対策」
104. 「学校改革」
105. 「日本の宇宙開発のレベルを上げるには」
106. 「サッカーと人種差別」
107. 「ギリシャ神話と差別」
108. 「ひとり親世帯の支援に必要な政策とは」